

「米海軍軍艦の小樽港入港に関する申し入れ」を実施

連合北海道は、米海軍ミサイル駆逐艦「マスティン」が7月1日から5日に小樽港へ「親善」を目的として寄港することを受け、6月27日在札幌米国総領事館へ、29日には北海道に対し、これに反対するよう申し入れを行った。



申し入れでは、民間商業港を準軍港化し日米新ガイドラインによる自治体協力をなし崩しに進めるもので、平和を願う市民の思いと逆行するものであると指摘。また、核弾頭搭載可能な艦船の入港は、核兵器廃絶平和都市宣言を行っている小樽市民の意志に反すると訴えた。

これに対し、在札幌米国総領事館レイチェル・ブルネットーチェン首席領事は「地元の声聞くことは重要と考える。こうした要請があった旨は、米国大使館と本国に伝える。」と述べた。

北海道森弘樹危機対策局長は「港湾管理者である小樽市長の意向が尊重されるべきと考える。核兵器の搭載の有無については、外務省に確認しており、在札幌米国総領事館に対しても乗員の規律の厳正な保持と、事故防止に万全を期すよう要請してきたところだ。」と述べた。また「港湾利用は日米地位協定に基づいて行われるものであり、国の基本的な施策である外交・安全保障に関わるものであるが、今後も渉外知事会を通じ、港湾管理条例等の尊重、非核三原則の堅持など地元の意向が尊重されるよう国に要望していく。」とした。連合北海道はこれに対し、「予定を変更し、バースを指定してまで入港するということは、親善ではなく、有事の際の能力検証をしているのではないかと疑わざるを得ない。日米地位協定を理由に入港するとしても、非常時に限るべき。道としても渉外知事会を通じ、日米地位協定の見直しを強力に推し進めてほしい。」と要求した。